

会議録

会議の名称	平成24年度 西東京市青少年問題協議会 第1回
開催日時	平成24年4月23日（月曜日）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	イングビル3階 第3・4会議室
出席者	委員；石田委員、河西委員、金原委員、小峰委員、住田委員、竹中委員、西原委員、納田委員、藤澤委員、細田委員、真鍋委員、（五十音順） ※欠席 ；市川委員、織田委員、勝見委員、森本委員 事務局；大久保子育て支援部長、中尾根子育て支援課長、阿久津調整係長、笹尾主事、横山児童青少年課長、西川主任
議題	1 青少年ヒヤリングについて 2 その他
会議資料の名称	・会議次第 ・西東京市青少年問題協議会委員名簿 ・「西東京市青少年問題協議会」事務局名簿 ・青少年ヒヤリングの結果について
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容	
<p>委嘱式 副会長挨拶 欠席者報告</p> <p>事務局： なお、この会を進行するに当たって、今後副会長を座長と呼ばせていただきたい。</p> <p>座長： それでは議題に入る前に、前回の会議録の承認を行いたい。</p> <p>委員一同： 異議なし。</p> <p>座長： それでは承認させていただく。</p> <p>座長： 青少年ヒヤリングについて専門部会から報告願いたい。</p> <p>A委員：</p>	

専門部会員が市内2箇所の児童センターでヒヤリングを実施した。ヒヤリング内容や感想については、各部会員より報告願う。

○座長：

最初にヒヤリングを実施した、ひばりが丘児童センターから報告願う。

B委員：

スタッフの方が、子ども達の話をお聴いてくれるので、居心地の良さと集まってくるのではないかと感じた。大人の目のある中で、過ごせる環境があり、相談できるスタッフがいることは心強いと思った。

C委員：

不登校児が多いと聞いていたが、職員の方が親身になって対応し、子ども達にとって、幸せであると感じた。

D委員：

遊んでいる最中に、話を聴くのに躊躇したが一緒に遊ぶことによって、話を聴くことができた。職員のケアがよく、子ども達が安心して遊んでいる様子が伺えた。

A委員：

遊んでいる子に話を聴くのが難しかった。

座長：

ひばりが丘児童センターは、二人一組になって、ヒヤリングを実施した。職員の質の良さを感じた。大人の目線ではなく、子どもの目線で対応しているのがよく分かった。

E委員：

後日、個人的に児童センターに行ったが、場所と職員が素晴らしいことと、性教育の必要性を感じた。

座長：

ヒヤリングに参加しなかった方で、何か質問、意見はあるか。

F委員：

子ども達は、何人ぐらいいたか。

B委員：

天候が悪かったが、20人ぐらいだった。

F委員：

子ども達が遊ぶ中で、職員が自然に声かけをし、見守っているのか。

座長：

職員は子ども達を理解した上で、親身になって対応している。

B委員：

学校と児童センターなどは、定期的な情報交換ができています。

G委員：

児童センターとは、よく連携がとれている。職員の質を下げないことが大事である。

B委員：

センターの職員が、カッコいいから来るという声があった。

A委員：

ヒヤリングの前に、センター長より説明があったので先入観が入ってしまったが、ここに来ている子は、児童センターをうまく利用している。

座長：

田無柳沢児童センターの報告願う。

C委員：

ひばりが丘児童センターと違って、普通の子ども達の利用がほとんどで、考え方が現実的だった。夕方遅くまで、児童センターで過ごすことに疑問を感じた。

D委員：

携帯電話などの質問については、こちらが想定していたような回答だった。夜間児童センターの開館が週1回で少ないという声もあったが、他の児童館に行っても顔なじみがないので、つまらないという意見であり、子ども達にとっての、居場所は人であると感じた。先生に対しての質問をもう少ししたかった。

A委員：

夜間開館については、NPO法人が児童センターを運営していることを知らなかった。市の運営との違いが分からなかった。子ども達は、一般的な子だった。

座長：

事務局に、児童センター運営の違い、メリットを伺う。

事務局：

夜間開館は、市が直営で運営していないので、一概に違いについて説明することは難しい。子どもへの、接し方や利用人数を増やす工夫等をよく頑張っている。

○座長：

家庭にいないで、児童館が居場所になっている事についてはどうか。

F委員：

大事な場所になっていることに興味がある。

G委員：

信頼できる職員がいて、ほっとできる場所は大事である。市の中に、一つでも二つでもあればと思う。

H委員：

専門委員の報告を聴いて、ひばりが丘児童センターの相談体制等はすばらしいと感じたが、田無柳沢児童センターの職員はどうだったか。

D委員：

職員は、経験もあり工夫し、声かけも上手である。

座長：

2つの児童センターでヒヤリングの方法を変えて実施したがどうだったか。

A委員：

子ども達が何かやっている所に話を聴くのは難しかった。子ども達に集まってもらって聴くやり方は、標準的な答えしか返ってこないと感じた。

C委員：

子ども達の本音を聴く難しさを感じた。

D委員：

最初から質問事項を決めて、子ども達に質問すればよかったと思う。信頼関係がないと本音は聞きにくい。

座長：

子ども達は、親よりも友人が大切な時期であると感じた。ヒヤリングより、「しゃべり場をやってみたい」という意見があったがどうか。

C委員：

テレビ等でやっていたのを見たい。

I委員：

子ども達の本音を引き出すために、専門的なコーディネーターが必要である。

○座長：

2回のヒヤリングを実施し、今後どう繋げるか、どのような事を期待しているか、意見はないか。

I委員：

子どもの生の声を行政のいろいろなサービスに、繋げていけると思う。各団体等から

委員として、出席しているので情報を共有し、テーマを投げかけていくのはどうか。

J委員：

児童センターに足を運べる子は、居場所があつていいと感じた。塾に行くといつて、どこかに集まっている子の方が、心配である。

E委員：

夜間開放を実施している児童センターを視察したい。以前市内の児童館を自転車で全館回って、地図に落とし、市民からみた児童館マップを作成した。ヒヤリングをした後に、児童館で見てきたことを情報提供したい。情報を発信して、夜間開館の利用者を増やしてはどうか。

○座長：

各団体の代表が集まっているので、組織で対応できないかと思うがどうか。

A委員：

市民の生活に触れ、地についた活動をしている団体なので、身近なところからいけばいいと思う。

B委員：

2つの取組み方が考えられる。1つは、所属の団体にある様々な問題を持ち寄って協議する。2つ目は、事例研究を通して、解決方法等を協議する。

A委員：

各団体だけでは、解決できない問題があるので、連携は大事である。

C委員：

子どもの悩み相談が多いので、各団体に持ち帰って議論してもらいたい。

B委員：

せっかくこれだけの組織が集まっているので、みんなで情報を共有したい。

○座長：

この協議会で、どの程度個人情報を出せるか疑問がある。この協議会は原則公開で行うので、事例検討を行うことは難しい。

I委員：

さまざまな団体がかつているので、各団体の情報を共有することで、問題の根っこが見えてくるのではないか。

A委員：

これからの進め方について、もう少し方法を変えてやってみてはどうか。

○座長：

今回ヒヤリングを実施したので、各児童館の運営協議会に繋げて、地域に広がる基を作っていきたいと思う。親の意見も聴くということも次回検討する。各団体をこの協議会に呼んで、具体的な問題を聴く方法もあるので、各委員に検討してもらいたい。

以上にて終了。

各委員の情報交換

次回 平成24年7月19日（木曜日）